

2022年11月16日
日本銀行金融市場局

気候変動関連の市場機能サーベイ説明会 議事要旨

1. 開催要領

(日時) 10月19日(水) 16時00分～17時15分

(形式) 電話会議

(参加者) 発行体、投資家、金融機関、格付け会社、金融業界の協会・団体等

(本行出席者) 金融市場局長、金融市場局審議役、同総務課長、同市場企画課長

2. 本行からの説明

- 本行より、気候変動関連の市場機能サーベイ(第1回)の結果概要について説明した。

3. 参加者の意見

- 上記説明の後、意見交換を実施した。会合参加者から聞かれた主な意見は以下のとおり。

サーベイ結果についての見方

- 本サーベイは、気候変動関連の市場機能の状況や課題を可視化し、関係者間の認識の共有に繋がる取り組み。
- 本サーベイによって、発行体・投資家双方の動向を広く把握し、両者の認識の違いを捉えることができる。グローバルに本邦市場の動向を説明する機会が増えており、サーベイ結果の英語版が公表されたことも重要。
- こうした包括的な調査は国内で初めての試みと思う。今回のような説明会の開催も有益。来年以降も継続して欲しい。
- サーベイ結果が関係省庁等における取り組みでも活用されるようになると、より有益ではないか。
- サーベイ結果をみると、気候関連リスク・機会の金融商品価格への反映は一部にとどまる。実務に携わる中でも価格差は大きくない印象。
- 今後の課題として、「情報開示の拡充や標準化」や「ESG評価の透明性の向上」が指摘されているが、こうした見方に同意。グローバルにも類似の課題を抱えている。

- 投資家が ESG 債に投資した理由として、「リターンの改善」が挙げられている。機関投資家は、責任投資とリターンのいずれを追及すべきかのトレードオフで悩んでいるのが実情とを感じる。

次回以降のサーベイに対する提案や要望

- ESG 投資を牽引する資産運用会社や保険会社の回答先を増やせると、より有益ではないか。
- 国際的に排出量の削減実績に対する関心が高まっていることから、これに関連した設問や選択肢を追加することも一案ではないか。
- 投資家や発行体の裾野の拡大や市場発展のための課題として挙げられた項目について、ブレークダウンした設問や選択肢の追加、業種別の分析などを加えてはどうか。

気候変動関連の市場機能向上に向けた課題

- 発行体の ESG 関連のプロジェクトや取り組み姿勢が、より重視されるようになっている。他方で、ESG 要素の金融商品価格や格付けへの織り込みは限定的。今後、織り込みが進むことを期待。
- 気候関連リスクや機会の金融商品価格への反映は投資判断にとって重要。開示される気候関連データの量・質の向上と、気候関連リスク・機会の分析手法の拡充の双方が求められる。
- 開示すべき情報やデータの標準化が進み、目線が揃ってくると、発行体の立場からも道筋がみえ、市場拡大という観点でも有効ではないか。
- 世界的な開示の標準化の動きが進んでおり、一本化された情報提供が可能となることを期待。
- ESG ファイナンスにおける間接金融についての情報の充実にも期待。
- グリーンボンド等の発行体の裾野の拡がりが限定的。発行実績がない先に対しての支援策を検討する必要がある。

以 上